

『医学生・初期研修医のための緩和ケアセミナー』の開催

完了報告書

日本ホスピス緩和ケア協会東北支部 会長

医療法人社団爽秋会岡部医院 理事長

岡部 健

〒981-1226 宮城県名取市植松1-1-24

TEL (022) 381-1236

FAX (022) 381-1256

助成金¥420,650

平成21年2月27日提出

助成金使用目的

緩和ケアに関心のある初期研修医に対して、緩和ケアへの思いを消失させないような刺激を与え、同じ思いを持つ仲間と話をする機会、緩和ケアに関する研修・仕事の情報提供の場として以下の内容のセミナーを開催

主催：日本ホスピス緩和ケア協会 東北支部

日時：2008年8月2日（土） 10時30分～18時30分を予定

場所：〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町2-12-7 ハーネル仙台4階「青葉」

電話：022-222-1121

参加費用：無料

内容：

10:30～11:50 死生観について

日本学術振興会 田代志門先生

12:00～12:30 緩和ケアの現状と未来

医療法人社団爽秋会岡部医院 岡部健先生

12:45～14:15 座談会（自己紹介、緩和ケアへの情熱、現状、困っていること・悩み希望など）

14:30～16:30 「ホスピスマインドの再確認と医療者のあり方」（意見交換）

医療法人惇慧会外旭川病院ホスピス 嘉藤茂先生

16:45～17:45 東北地区施設紹介（研修プログラム、実際の診療内容など）

18:00～18:30 後期研修医（現在緩和ケア研修中）の話

福島県立医科大学 橋本孝太郎先生

医学生・初期研修医のための緩和ケアセミナー参加者感想

東北大学病院 緩和医療部 中保利通

昨年からはまったこのセミナー、医学生・初期研修医の緩和医療に対する関心をより一層高めるために企画されています。大学病院という仕事場に身をおき、臨床のかたわら医学生・研修医教育を担当している者として、この分野に関心を寄せる皆さんの声を聞いてみたくて今回初めて参加させていただきました。

そういえば自分が医学生だったころ、近くの病院で行われている学生対象の夏期セミナーに何度か参加したものです。その時に医学・医療というものに初めて身近に触れた経験は、今振り返ってみるとなるほど少しは役立っていたのだな、とすることができます。詳しくすぎて何かよく理解はできないけれど、ひとつの分野についてしっかりとこだわりを持っていて、とても熱心に語るドクターがいるものだ、と情熱だけはちゃんと伝わった記憶があります。ああ、いつのまにか自分がその立場になって語る番になったんだな、と今更ながら実感しました。

「医者は聡明な人間ではなく、深みのある人間が良い。深みを持て。骨に刻み、血に流れるようにせよ。」ある韓国ドラマの中での台詞です。細かい知識・技術はいつかは古くなり使い物にならなくなってしまうものですが、「深み」という言葉で示された医療を志す者としての態度は、古来変わることはありません。患者さんの苦痛・悩みをうまく引き出して、どうすればそれらが和らぐのかをともに考えていくこと、緩和医療というのは決して特殊な分野ではなくプライマリケアなのですが、患者さんの困っている姿を自分の目と耳でよく確かめ、それがケアあるいは治療により癒されていく過程を共に経験させてもらううちに、その「深み」とやらが少しずつ身についていくのだと信じます。

短時間のセミナーの中で最も大切なことは何か、それは啓発ということだと思います。「あ、自分と同じことを考えていた人がいた」「なんか、変わった人がいる」「スゴイ、初めて聞いた、こんな話」「話せないでいた思いを聞いてもらえた」など。今回参加者は5名と決して多くはありませんでしたが、緩和ケアなどという領域に興味をもっていることを堂々と表明していいんだという雰囲気の中に身をおくことで、育ち始めた芽は着実にふくらんでいったことでしょう。ぜひ大切にこれからも心の中で守って行っていただきたいと思います。最後になりましたが、企画・準備をされた皆様、本当にお疲れさまでした。

東北大学医学科2年：星陽介

これは我々学生側の問題だと思いますが、学生・研修医参加者5名というのは寂しかった。新聞をめくれば、緩和ケアの現状に触れるような記事を見かけることは少なくないと

思うのですが、学生達は情報収集のアンテナをどこに向けて張っているのか？緩和ケアに限らず医療に関わる問題に対して、多くの学生が同じような姿勢で臨んでいるとしたなら、憂慮すべきことではないでしょうか。そういうことを考えざるを得なかったことが、当日一番辛かったことです（もちろん個人的な意見ですが）。

セミナーの案内一枚では伝えきれないものを、いかにして学生に浸透させていくのか？彼らのなかに身を置く自分にできること、あるいは彼らの外側にいる皆さんができることについて、今一度考えてみる必要があると感じます。

講演の内容について。興味深い話ではありましたが、討論しにくい内容でもあった。「○○です。」と言われれば、そうですかと言わざるを得ない話が多かったように思う。であるならばもう少し具体的な話が欲しかった。その中で昼食時間に岡部先生がおっしゃっていた、地域に根ざした医療についての話（それがメインテーマではなかったが）は興味深く、改めてそうした現場で仕事がしてみたいと思った。

セミナーの雰囲気非常に良かった。緊張はしたが意見の言いやすい場だった（だからこそもう少し突っ込んだ議論がしてみたかった）。

今回のセミナーに参加して、とくに在宅医療について深く考えてみたいとおもいました。段階的に専門的な話を聞くことができないものかと考えており、今後同様の勉強会には可能なかぎり参加していこうと思っています。ですからそうした情報を今後も連絡していただければ幸いです。

福島医大6年：奥山亜由美

医療側からだけの視点ではなく、社会学的な視点からもみた講演も聞く事ができ、大変勉強になりました。

また、ただ講演を聴くという形ではなく、研修医や医学生が自分の考えや意見を述べる機会も設けていただき、積極的に参加できたセミナーだったと思います。

福島県立医科大学医学部5年 官崎春野

セミナーでは大変お世話になりました。

興味深いお話をたくさん聞かせていただき、とても勉強になりました。

複数の病院の、緩和ケア医の方々のお話を生で聞ける機会はほとんど無いので、貴重な経験でした。

緩和ケアをより身近に感じられるきっかけになったと思います。

学生・研修医の参加者が少なかったので、緊張してしまいましたが、先生方と直接お話できて良かったです。

今回のセミナーのことは、大学の更衣室前のホワイトボードに張ってあった紙を見て知りました。

しかし気がついたときには締め切りを過ぎてしまっていました。

今後はもっと目立つポスター等を掲示板に貼るなどすると、わかりやすく参加者も増えるのではないかと思います。

また機会があればぜひ参加させていただきたいと思います。

ありがとうございました。

東北大学1年：太田エリコ

感想としては、もっと緩和医療の現状とか、実際の医療者のルーティーンワークとかに時間を割いてほしかったです。

中間報告後に作成したメーリングリストの内容

「緩和のたまご」メーリングリストメンバー 2009年2月現在

研修医 5名
医学生 3名
医師 11名
臨床心理士 1名
薬剤師 2名（薬学研究者 1名含む）
MSW 2名
鍼灸師 1名
事務 3名
以上、計28名

目的：緩和ケアに興味・関心をもつ医学生・研修医に対して、興味を膨らませてもらうこと、関心に答えること

参加者：緩和ケアに興味・関心をもつ医学生・研修医医学生・研修医の問いに答えるための、東北地域で緩和ケアを専らの仕事としている医師、看護師、SW、薬剤師など

内容：医学生・研修医からの疑問質問（よろず相談）＋緩和ケアに関する講演会・研究会などの案内＋月に一回程度のコラム（順番で誰かが随想でも文献でも何か書く）

メーリングリスト内で行われたディスカッション

研修報告

・大学病院で緩和ケア研修中の後期研修医が、短期でがんセンターに研修中であったため、その報告があった

「一般病院での現状はどうでしょうか。がん医療を理解し、がん患者の精神症状をちゃんと診察することのできる医師はまだまだ少ないのが実際のところでしょう。（精神科の先生方でもがん患者の精神症状に興味を持つ方の割合は非常に低いと聞いています。）精神科の先生が興味わかないのならば自分で勉強してこよう！ということでこうしてがんセンターに来てみました。」との書き込み有り

・関東の病院で後期研修中の研修医から近況報告あった

「緩和は他の科より病院内だけではなく外の人と人とのつながりがとっても大切な分野だと思います。

このメーリングリストでたくさんの人と知り合い、情報を共有し、緩和の輪を広げられたらとても素敵なことだと 思っています。」との書き込みあり

事例

・ホスピス入院中の精神的な苦痛のある患者への対応について後期研修中の研修医から質問有り

- ・在宅緩和ケアの専門医より、代謝機能にも注意すべきとアドバイス有り
- ・在宅緩和ケアの専門医より、基本的な接し方についてのアドバイス有り
- ・チャプレン兼臨床心理士より、心理的対応についてアドバイス有り

告知

・後期研修中の研修医から、病名、病状告知のありかたについて質問有り

「このメーリングリストの参加者にはいろいろな職種の方がいますがみなさんは告知についてどのように考えていますか？またどのように告知されたいですか？医師の方はどんな告知をしていますか？（していましたか？）」

・薬剤師兼研究者より、文献や患者からの意見を元に発言有り

「治療により生存期間やQOLの改善の可能性があるのに緩和ケアをする、治療による改善が期待で

きないのに化学療法をする、どちらも適切ではないように思います。そういう知識がなければ、患者さんに寄り添うような告知は難しいかも知れませんね。でも、告知は、医師だけの問題とは思っていません。医師、看護師、薬剤師、MSW、臨床心理士などのチームで行うことが出来れば良いですね。」などとの書き込み

・後期研修医より、研修中の指導医たちがどのようにしていたかとの報告有り

「どの先生も特に「がん」という言葉を患者さんに対して使うことに慣れていないし、情緒面を配慮した言葉が足りないなということでした。上手に告知を行える先生はほとんどいなかったように思います」などとの書き込み有り。

・緩和ケア医より、外科医として経験した20年ほど前と最近の身の回りでの告知の様子についての報告有り

・在宅緩和ケアを行っている後期研修医から、自身の経験からの意見あり

「知らせるべきだとか、伝えなくてはいけないというのはあくまでこっち側の満足や便利で、大切なのは、患者さんが知りたくないと思うことがあればそれを感じる心や、あとどれくらい自分に時間が残されているのか知りたいのであればその気持ちや人生観を尊重すること、何事にも誠実に対応すること、患者さんを想うことなんじゃないかと思います。」などとの書き込み有り。

・チャプレン兼臨床心理士より、アドバイス有り

・在宅緩和ケアの専門医より、自身の経験からの意見あり

お知らせ

・勉強会のお知らせについて、数回情報提供有り

この報告書作成は、財団法人在宅医療助成勇美記念財団の助成による。

「医学生・初期研修医

緩和ケアセミナー」のお知らせ

緩和ケアに関心があり、将来は緩和ケアを仕事にしたいと考えている医学生諸君！そして、現在初期研修中であって、初期研修終了後に緩和ケアの研修・勉強ができる施設を探している、もしくは緩和ケアを専門にした就職がしたいと考えているみなさん！

緩和ケアに興味があると周囲の人たちに話すと、「変わってるねー」など否定的な言葉を浴びせられていませんか？ 緩和ケアに関心のある学生や研修医たちと話をしてみたいと思いませんか？ 実際に緩和ケアを研修している若い医師の話話を聞いてみたいと思いませんか？ 緩和ケアの研修・勉強・就職ができる施設の情報が欲しいと思いませんか？

そのような皆様のご要望に応えるべく、セミナーを企画してみました
気軽な会にしたいと考えております。是非、ご参加下さいませ

主催：日本ホスピス緩和ケア協会 東北支部
日時：2008年 8月 2日(土) 10時30分～18時30分を予定
場所：宮城県仙台市 (仙台駅周辺の予定)
参加費用：無料
内容(予定)：

- 10:30～11:50 死生観について(講演)
- 12:00～12:30 (昼食食べながら) 緩和ケアの現状と未来(概論)
- 12:45～14:15 座談会(自己紹介、緩和ケアへの情熱、現状、困っていること・悩み、希望など)
- 14:30～16:30 「ホスピスマインドの再確認と医療者のあり方」(意見交換)
- 16:45～17:45 東北地区施設紹介(研修プログラム、実際の診療内容など)
- 18:00～18:30 後期研修医(現在緩和ケア研修中)の話

19時から 懇親会を予定しています
参加申し込み人数により、会の型式、会場は調整予定です

参加申し込み：電子メールもしくはFAXで下記の必要事項を記載の上、
6月30日(月)までにお申し込み下さい。

メール：kitamura@okabe.natori.miyagi.jp

FAX：022-381-1256

件名(タイトル)：「学生・初期研修医 緩和ケアセミナー」申し込み

メールまたはFAX本文；氏名、現在通学中の大学名・学年もしくは研修中の病院名、
連絡先住所・電話番号、メールアドレス

記載もれのないようにお願いします

昨年のセミナーの様子



日本ホスピス緩和ケア協会 東北支部
代表 岡部 健(爽秋会 岡部医院)